

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	795 大山田郷土資料館維持管理経費	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
基本 施策	36 歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	目	02	文化財保護費
		細目	435	文化施設維持管理事業
行革大綱の重点事項番号	4	細々目	03	大山田郷土資料館維持管理経費
担当部課	コード 450400 名称 教育委員会 生涯学習課	担当者 氏名	横田ちえみ	連絡先 22 - 9679 (内線) 3830

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	・伊賀市特に旧大山田村に関連する民俗資料及び出土資料 ・市民や観光客	※対象件数
成果(どうする)	・適正に収集され、展示される。 ・伊賀市の歴史・文化を理解してもらう。	
根拠法令・要綱等	文化財保護法・大山田郷土資料館の設置及び管理に関する条例	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業 内容	・常設展示を行なう。	
社会情勢 の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	民間委託等
委託先	新大仏寺
2 配置人員	1.0 人
3 年間運営費	2,696 千円
4 市内の 類似施設	上野歴史民俗資料館、柘植歴史民俗資料館、 阿山ふるさと資料館、島ヶ原資料館

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
来館者のべ人数		人	目標 1600	目標 1600	1600	1600
			実績 1662	実績 2139		
開館日数		日	目標 306	目標 306	200	200
			実績 306	実績 306		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
入館者数		市民や観光客に足を運んでもらうか。	人	目標 1600	目標 1600	1600	1600
				実績 1662	実績 2139		
				目標	目標		
				実績	実績		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	2,748	514			582		582	
Aの 財源 内訳	国庫支出金							
	県支出金							
	地方債							
	その他	0	0					
一般財源	2,748	514			582		582	
事業投入人件費(B)	0.3人	2,160	0.3人	2,160	0.0人	0	0.0人	0
フルコスト(A)+(B)	4,908	2,674			582		582	

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律で実施が義務付けられている事業	
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事務事業	
個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業		
市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○	
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対称者以外の第3者にも利益が及ぶ事業		
国や県、民間が同様のサービスを提供している。	○	
事業開始からの目標・目的を概ね達成している。		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない。		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響は大きい。		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高 サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】 予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 阿山ふるさと資料館維持管理経費 受益者負担を求めることができる事業である。 全体コストにおける負担構成は適正である。 コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	○ 見学者の要求がある時だけ開館する形をとり、経費を最小限度に抑える。

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	今後、地元および区長会と協議を行なう。
昨年度の 取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 市直営の管理を廃し、見学者の希望に応じて、新大仏寺に資料館の開閉館を依頼している。

今後の方向性(Action)

評価者氏名 (担当課長)	横田 ちえみ
事業の方向性	【方向性】 縮小 【理由】 平成21年度から常設展示は行わないが、見学を希望する人には入館していただく。
現時点における 課題、その他	平成21年度より、希望者があつたときに開館とした。
課題、その他に 対する改善策 (いつまでに、何を、どうする)	常設展示は行わないこととし、平成23年度からは資料保管庫として管理を行う。但し、見学希望者には入館してもらう。